



TITLE:

後腹膜黄色肉芽腫の1例

AUTHOR(S):

鈴木, 和浩; 三浦, 尚人; 植田, 健; 鈴木, 文夫; 伊野宮, 秀志; 小竹, 忠; 西川, 泰世; ... 松寄, 理; 菅野, 勇; 長尾, 孝一

CITATION:

鈴木, 和浩 ...[et al]. 後腹膜黄色肉芽腫の1例. 泌尿器科紀要 1992, 38(3): 315-318

ISSUE DATE:

1992-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117502>

RIGHT:

後腹膜黄色肉芽腫の1例

帝京大学医学部附属市原病院泌尿器科学教室 (主任: 伊藤晴夫教授)

鈴木 和浩, 三浦 尚人, 植田 健

鈴木 文夫, 伊野宮秀志, 小竹 忠

西川 泰世, 山口 邦雄, 伊藤 晴夫

帝京大学医学部附属市原病院病理学教室 (主任: 長尾孝一教授)

松寄 理, 菅野 勇, 長尾 孝一

RETROPERITONEAL XANTHOGRANULOMA: A CASE REPORT

Kazuhiro Suzuki, Naoto Miura, Takeshi Ueda,

Fumio Suzuki, Hideshi Inomiya, Tadashi Kotake,

Yasuyo Nishikawa, Kunio Yamaguchi and Haruo Ito

From the Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, Ichihara Hospital

Osamu Matsuzaki, Isamu Sugano and Koichi Nagao

From the Department of Pathology, Teikyo University School of Medicine, Ichihara Hospital

A case of retroperitoneal xanthogranuloma is reported. A 51-year-old man was referred to our hospital for the evaluation and treatment of right flank pain and hydronephrosis. Intravenous urography (DIP) and retrograde pyelography revealed the stricture in the middle portion of the right ureter. Ureteroscopy revealed no mucosal lesions. Computed tomography revealed the para-ureteric mass lesion. Partial ureterectomy, mass resection and uretero-ureterostomy were performed. Then a double J stent was left in place for 6 weeks. The stricture was due to a yellowish mass adhered to the right side of the ureter. The resected mass measured 1.0×2.0×1.0 cm. The histopathological diagnosis was xanthogranuloma. The patient is in good health without recurrence 4 months after the surgery.

(Acta Urol. Jpn. 38: 315-318, 1992)

Key words: Retroperitoneal tumor, Xanthogranuloma

緒 言

黄色肉芽腫は、組織球の浸潤が著明で黄色の割面を呈する肉芽腫性病変であるが、後腹膜腔に発生することは比較的稀である。今回われわれは尿管内側に発生した黄色肉芽腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 51歳, 男性, 消防士
主訴: 右側腹部痛
家族歴: 兄が肝癌
既往歴: 14歳時虫垂炎にて保存的治療
現病歴: 1978年頃より時折右側腹部痛あり。1990年7月近医にて右水腎症を指摘され、精査加療目的に当

科受診。

現症: 身長 167 cm, 体重 50 kg, 栄養良好, 血圧 116/68 mmHg, 脈拍60/分, 体温 36.4°C. 胸部理学的所見に異常を認めない。右側腹部に自発痛を認める。外陰部に異常を認めない。

入院時検査成績: 血液一般: RBC $411 \times 10^4/\text{mm}^3$, Hb 12.8 g/dl, Ht 37.3%, WBC $4,500/\text{mm}^3$, Plt $18.3 \times 10^4/\text{mm}^3$. 血液生化学: TP 6.8 g/dl, Alb 4.4 g/dl, T. Bil 0.4 mg/dl, D. Bil 0.3 mg/dl, GOT 14 IU/l, GPT 16 IU/l, LDH 291 IU/l, AIP 122 IU/l, T. Chol 229 mg/dl, BUN 17.0 mg/dl, Cr 1.1 mg/dl, UA 4.8 mg/dl, Na 143 mEq/l, K 4.1 mEq/l, Cl 105 mEq/l, Ca 4.5 mEq/l, P 3.0 mg/dl, Mg 2.2 mg/dl. CRP (-). 血沈: 1時間 22 mm. 尿検査: 蛋白 (-), 糖 (-), ウロビリノーゲン (-), 沈渣:

RBC 3~5/hpf, WBC 3~5/hpf, 尿細菌培養 (-), 尿細胞診 class I.

X線検査: KUB では明らかな結石陰影を認めず, DIP では, 右水腎水尿管を認めた (Fig. 1). 右尿管狭窄を疑い逆行性造影を施行した. 外側からの圧迫を疑わせる尿管狭窄を認めた (Fig. 2). 尿管鏡検査では尿管に輪状の狭窄を認めた. 粘膜に異常は認めず, 腎機能改善目的にダブルJステントを留置した. 後日

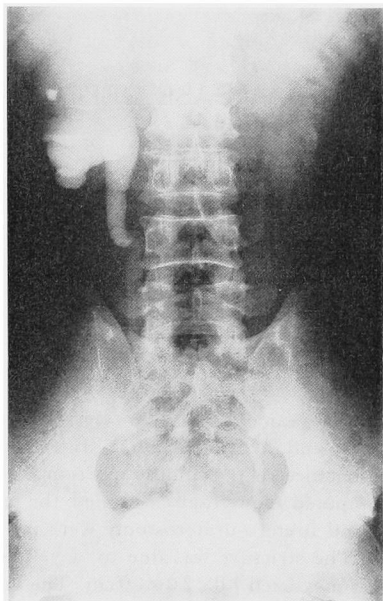


Fig. 1. DIP shows right hydronephrosis and hydroureter.

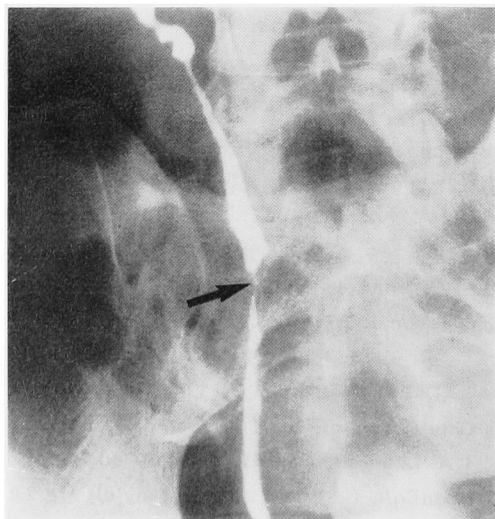


Fig. 2. RP shows right ureteral stricture (arrow).

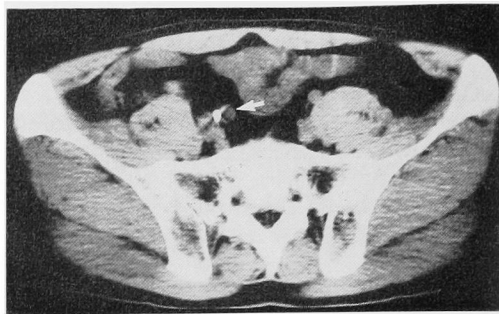


Fig. 3. CT scan reveals a small mass (arrow) inside the right ureter.

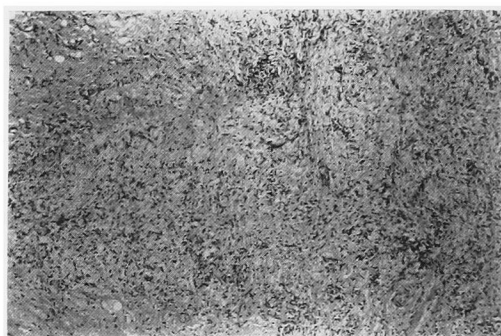


Fig. 4. Microscopic examination in H.E. stain ($\times 25$).

施行した CT では右尿管内側に小腫瘍様病変を認めた (Fig. 3). 以上より後腹膜腫瘍の圧迫による尿管狭窄を疑い1990年12月12日手術を施行した.

手術所見: 傍腹直筋切開にて後腹膜腔に達した. 画像診断上の狭窄部位に一致して尿管を内側より圧迫する黄色調の腫瘍を認めた. 腫瘍は腹膜とも強固に癒着していた. 腫瘍と尿管の一部および腹膜の一部を一塊として摘出した. 迅速病理にて悪性所見を認められなかったため残存尿管を端々吻合し, ダブルJステントを留置し終了した.

病理組織所見: 摘出尿管には組織学的に, 著明な炎症所見が認められ, 尿管の外膜に接して線維性の組織が認められる. その線維性の組織には膠原繊維の増生, 好中球を含む炎症性細胞に混じて foamy histiocyte の浸潤が著明に認められ, 黄色肉芽腫性病変の所見である. なお同部位の移行上皮には異型は認められず腫瘍を示唆する所見は認められなかった (Fig. 4).

術後経過は良好で, 4 カ月後の現在再発の兆候を認めない.

Table 1. Retroperitoneal xanthogranuloma reported in the Japanese literature.

報告者	報告年	年齢	性別	主 訴	大 き さ
渡辺照男 ⁴⁾	1968	55	女	妄想・歩行困難 嚥下困難 不随意運動	小鶏卵大
天野卓哉 ⁵⁾	1973	19	男	左側腹部腫瘤・疼痛	不明
湯本東吉 ⁶⁾	1973	37	男	不明	15×10×10 cm
伊香雅文 ⁷⁾	1974	65	男	右下腹部腫瘤	約 8 cm
加野實典 ⁸⁾	1975	44	女	右側腹部痛 腹部腫瘤	腎臓大
池田 稔 ⁹⁾	1976	75	女	右側腹部腫瘤	手拳大
タ		16	男	右側腹部腫瘤	超鶏卵大
友吉唯夫 ¹⁰⁾	1976	25	女	左側腹部鈍痛	5×5×3.5 cm, (40 g) 10 g
崎元哲郎 ¹¹⁾	1977	45	女	全身倦怠感 左季肋部痛	約 10 cm
森本 修 ¹²⁾	1980	44	男	左側腹部腫瘤 左腰部痛	10.5×13.0×3.5
井口厚司 ¹³⁾	1980	52	男	尿潜血	不明
後藤百萬 ¹⁴⁾	1981	44	女	頭痛・全身倦怠感	手拳大
金子 正 ¹⁵⁾	1982	72	女	右側腹部痛・発熱	3×2 cm
近藤清治 ¹⁶⁾	1985	61	女	腎上極部囊胞精査	10×9.5×7.5 cm
八代直文 ¹⁷⁾	1985	44	男	不明	小児頭大
和気善徳 ¹⁸⁾	1986	72	女	発熱・心窩部痛	不明
笠野泰生 ¹⁹⁾	1987	54	男	腰痛・発熱	7.0×7.5 cm
川端規弘 ²⁰⁾	1988	16	女	上腹部腫瘤	10×10×7 cm, (260 g)
武山 聡 ²¹⁾	1988	70	女	腹部膨満感	12×12×8 cm
棚瀬嘉宏 ²²⁾	1989	65	女	頻尿・下腹部不快感	5×4×1 cm
古田雅也 ²³⁾	1989	64	女	腹部腫瘤	10×10×15 cm
(自験例)		51	男	右側腹部痛	1×2×1 cm

考 察

後腹膜黄色肉芽腫は、1935年 Oberling¹⁾ により後腹膜における炎症性細胞浸潤と線維芽細胞の増殖を伴う泡沫細胞の腫瘍状増殖性病変として、初めて報告された。本症の原因については不明であるが、脂質代謝異常を伴った局在性炎症であるとの説¹⁾、histiocytosisx との関連説²⁾などがある。また、電顕的観察から発生機序を推測した報告³⁾もある。

本邦における後腹膜黄色肉芽腫については、自験例を含め22例の報告⁴⁻²³⁾がある。年齢は16歳から75歳、平均50歳であった。男女別では、男性9例、女性13例であり、男女比は1:1.4であった。主訴は、腹部腫痛、腹痛が多く、以下発熱、全身倦怠感などとなっており、特異的な症状は認められなかった。大きさについては、自験例のように画像検査上その局在診断が困難であった小さいものから、小児頭大にまでおよぶものまであった。自験例は腫瘍が小さく尿管狭窄と診断してしまう可能性もあった。注意が必要と思われた。

治療は、外科的切除²⁴⁾、放射線療法²⁵⁾、および両者の併用療法^{1,26)}等の報告がある。予後については、本

邦例では長期間経過観察されたものがなく詳細は不明である。しかし、外国例では組織学的に細胞異型がなくても臨床的には悪性の経過をとったものの報告もあるため今後十分な経過観察が必要と考えている。

結 語

51歳男性に発生した後腹膜黄色肉芽腫の1例を、若干の文献的考察を加え報告した。本症例は本邦22例目と思われた。

本論文の要旨は第475回日本泌尿器科学会東京地方会において発表した。

文 献

- 1) Oberling C: Retroperitoneal xanthogranuloma. *Am J Cancer* **23**: 477-488, 1935
- 2) Waller JI, Hellwig CA and Barbosa E: Retroperitoneal xanthogranuloma associated with visceral eosinophilic granuloma. *Cancer* **10**: 388-392, 1957
- 3) Papadimitriou JM and Matz LR: Retroperitoneal xanthogranuloma. A case report

- with electron microscopic observation. Arch Path **83**: 535-542, 1967
- 4) 渡辺照男: 黄色肉芽腫症の1例。医学のあゆみ **64**: 210, 1968
 - 5) 天野拓哉, 尾本徹男 Retroperitoneal Xanthogranuloma の1例。西日泌尿 **35**: 533-538, 1973
 - 6) 湯本東吉: 線維性組織球腫について。臨整外 **8**: 698-713, 1973
 - 7) 伊香雅文, 福田義人, 福本 進, ほか: 回盲部に生じた黄色肉芽腫の1例。南大阪病院医学雑誌 **22**: 145-149, 1974
 - 8) 加野資典, 中山 宏, 岩崎 宏: 後腹膜黄色肉芽腫 (Retroperitoneal Xanthogranuloma) の1例。臨泌 **29**: 455-459, 1975
 - 9) 池田 稔, 松尾栄之進, 近藤 厚: Retroperitoneal Xanthogranuloma の2例。日外会誌 **77**: 1100, 1976
 - 10) 友吉唯夫, 沢西謙次: 後腹膜黄色肉芽腫の1例。泌尿紀要 **22**: 447-451, 1976
 - 11) 崎元哲郎, 武井信介, 木村正治, ほか: 大腸周囲に発生した黄色肉芽腫の1例。日内会誌 **66**: 569, 1977
 - 12) 森本 修, 黄 河清, 福本 進, ほか: 後腹膜黄色肉芽腫 (Retroperitoneal xanthogranuloma) の1例並びに本邦例集計。南大阪病院医学雑誌, **28**: 51-57, 1980
 - 13) 井口厚司, 中州 肇, 八木拓朗, ほか: 後腹膜黄色肉芽腫の経験。西日泌尿 **42**: 929, 1980
 - 14) 後藤百萬, 鈴木靖夫, 三宅弘治: 後腹膜黄色肉芽腫および子宮内膜症性卵巣嚢腫に合併した水腎症の1例。臨泌 **35**: 681-684, 1981
 - 15) 金子 正, 山下憲一: 腎周囲に発生し, 結腸壁にも浸潤を伴った後腹膜黄色肉芽腫の1例。近畿中病研業 **3**: 181-189, 1982
 - 16) 近藤清治, 山下善寛, 服部文雄: 嚢胞状發育を示した retroperitoneal xanthogranuloma の1例。日消病会誌 **82**: 742, 1985
 - 17) 八代直文: 後腹膜腔。総合臨床 **34**: 2136-2139, 1985
 - 18) 和気義徳, 金田文輝, 今 達 興味ある経過を示した後腹膜 Xanthogranuloma の1例。日臨外会誌 **47**: 1136, 1986
 - 19) 笠野泰生, 小西隆蔵, 三島秀雄, ほか: 後腹膜黄色肉芽腫の1例。和歌山医学 **38**: 513-520, 1987
 - 20) 川端規弘, 大江成博, 辻 寧重, ほか: Retroperitoneal xanthogranuloma の1例。室鉄病誌 **26**: 97, 1988
 - 21) 武山 聡, 坂本 尚, 羽賀将衛, ほか: 後腹膜黄色肉芽腫の1例および当院における後腹膜腫瘍17例の統計的考察。北外誌 **33**: 47-50, 1988
 - 22) 棚瀬嘉宏, 岩井省三, 川喜多順二, ほか: 後腹膜黄色肉芽腫の1例。臨泌 **43**: 503-505, 1989
 - 23) 古田雅也, 杉山純夫, 鈴木良彦, ほか: Perirenal space に発生した黄色肉芽腫の1例。日医放線会誌 **49**: 789, 1989
 - 24) Kahn LB: Retroperitoneal xanthogranuloma and xanthosarcoma (malignant fibrous xanthoma). Cancer **31**: 411-422, 1973
 - 25) Ozarda AT and Naifeh G: Retroperitoneal xanthogranulomas. Case report of favorable response following irradiation. Cancer **26**: 1109-1111, 1970
 - 26) Krugly M, Emanuel B, Smallberg W, et al.: Retroperitoneal xanthogranuloma. Pediatrics **30**: 608-610, 1962

(Received on April 24, 1991)

(Accepted on July 9, 1991)